



スポーツ庁 第2回大学スポーツ構想会議

[文部科学省東館3階 第2特別会議室：2025年6月6日（金）12:00 ～ 14:00]

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

レクリエーション環境の充実

ー 北米の大学におけるレクリエーショナル・ スポーツの現状から学ぶー

Futurize.

きみの意志が、未来。

立命館大学 中西 純司

I. 視察調査の概要

- ◆ 本学が目指す「感動する立命館スポーツ」の実現にむけて、立命館スポーツの本質的価値を最大化できるよう、大学スポーツの先進国である米国において、学内外との連携・協力体制までも含めた「スポーツ推進組織」を整備するとともに、独自のファイナンス・マネジメント（スポーツ推進のための収入源の確保）を実現しながら、大学スポーツそれ自体の価値を最大化する取組を推進する先進大学に対する視察調査を実施した。なお、視察調査費用は、本学の「2022年度 R2030 推進のためのグラスルーツ実践支援制度」による学生部への助成（一部）（<https://ritsumei-grassroots.jp/group/455/>）であることを断っておきたい〔GPSP（グラスルーツ実践支援制度）事務局にも確認済み〕。
- ◆ 具体的には、NCAA（全米大学体育協会）Division 1 の属する大学347校の中から、主にスポーツビジネス大学世界ランキング10位以内を中心に大学の選定を行い、最終的には、7大学のレクスポ部署を視察調査の対象とすることにした。

- | | |
|---|---|
| 1. University of Southern California (USC) | https://recsports.usc.edu/ |
| 2. University of California Los Angeles (UCLA) | https://recreation.ucla.edu/ |
| 3. Stanford University | https://rec.stanford.edu/ |
| 4. University of San Francisco (USF) | https://www.usfca.edu/koret |
| 5. University of Connecticut (UConn) | https://recreation.uconn.edu/ |
| 6. University of Massachusetts, Amherst (UMass) | https://www.umass.edu/campusrec/ |
| 7. The Ohio State University (OSU) | https://recsports.osu.edu/ |

II. 視察調査の実施期間：2023年2月28日（火）～ 3月12日（日）

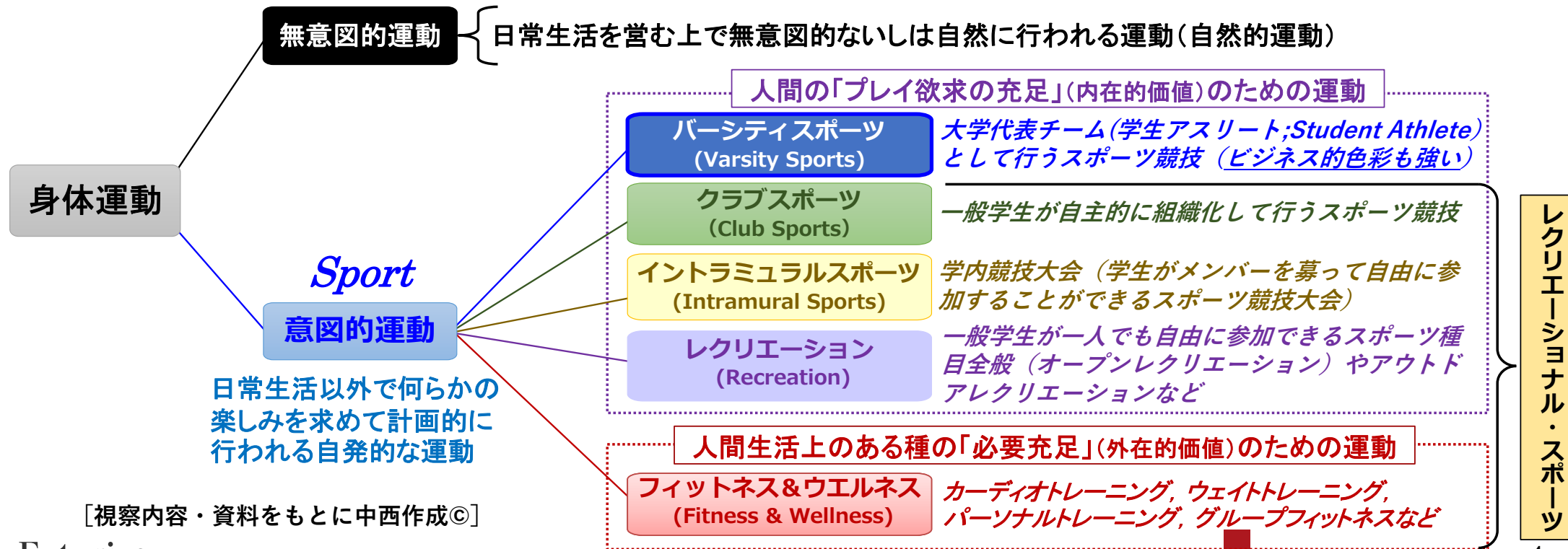
III. 視察調査の内容（アジェンダ）

1. Organizational/Department structure 組織構造（ADとの関連）
2. Budget and distribution 予算とその分配
3. Staffing and job responsibilities 雇用（種類・人数）とそれぞれの職務
4. Programs – intramural sports, recreational sports プログラム：イントラミュラル・スポーツ，クラブスポーツ，レクリエーショナル・スポーツ（レクスポ；RecSpo）
5. Special projects, events スペシャルプロジェクトやイベント
6. Community engagement コミュニティとの連携
7. Partnerships (if any) スポンサーシップ（レクリエーションとしてあれば）
8. Effectiveness measurement 効果の測定
9. Impact to the value of the university 大学にとってのレクスポの価値
10. Challenges and solutions 挑戦課題とその解決策

IV. 北米の大学における RecSpo Managementから学ぶ.

1. 大学スポーツ (*Collegiate Sport*) の一般的な考え方

- 学生が「(身体) 運動の楽しみ」を求めて自発的 (意図的)に行う「文化的な活動」.

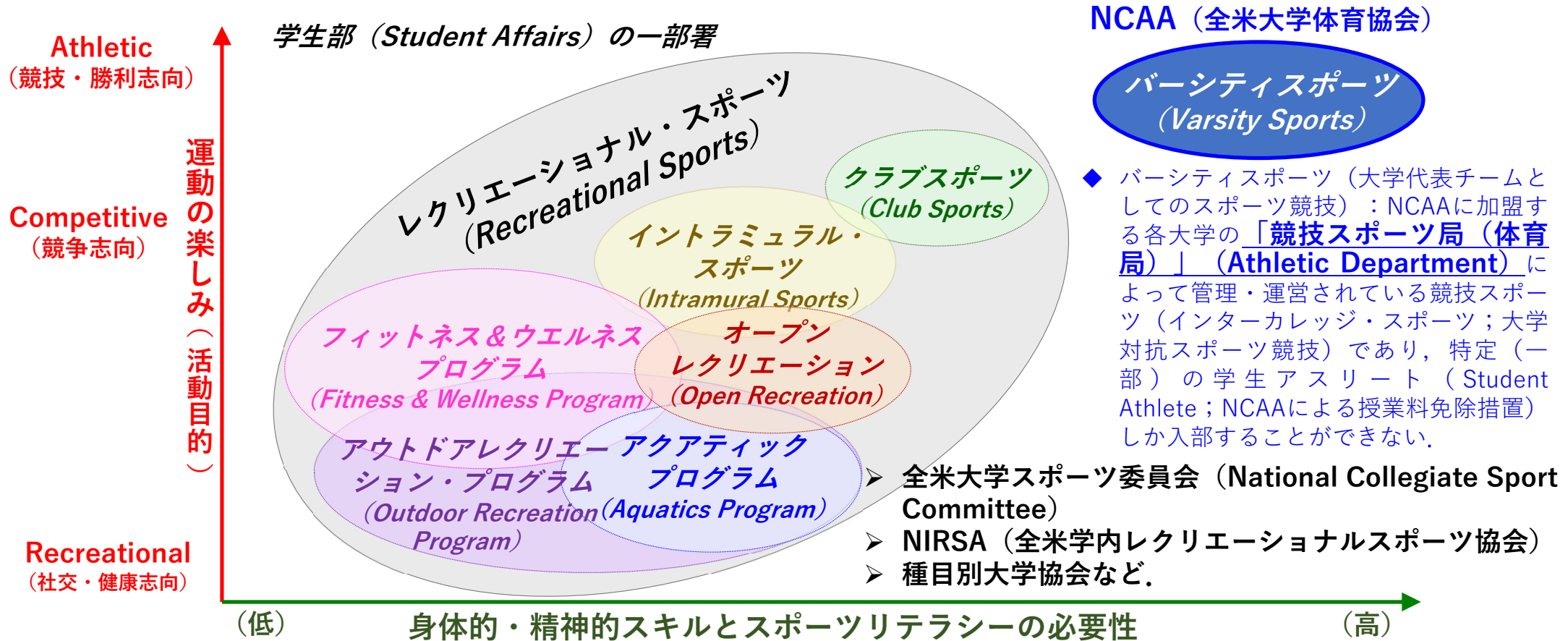


[視察内容・資料をもとに中西作成©]

2. RecSpo Managementのあり方

- ① **組織システム**：Stanford Univ.を除く6大学が「**学生支援部**」（Student Affairs）の一部署である。バーシティスポーツを管轄するAthletic Department（AD）とは別組織である。
- ② **使命・フィロソフィ**：Well-being（Wellness）の基盤づくりとしての身体活動の推進を通じて、人と人とのつながりや協働とダイバーシティ（多様性）を創造するとともに、学生の心身の健全な発達と豊かなライフスタイルの形成、および地域社会とのパートナーシップ関係の構築に貢献すること。※学生が対人関係づくりに必要な知識・技術やリーダーシップ、マネジメント・組織づくりのスキルを獲得すること。
- ③ **予算・収益モデル**：大学の一般財源や州政府からの補助金、学生自治会等からの補助金、**学生・教職員・地域住民等からの会費・参加費・施設利用料等**、企業スポンサー、寄附金など。
- ④ **プログラム・施設利用**：7大学とも、**拠点施設としてのRecreation Centerの管理・運営**をしている。その拠点施設を活用しながら、**以下のようなレクスポ（プログラムや施設開放サービス）を主に提供していた。**
 - **フィットネス&ウエルネスプログラム**；心肺系，ウェイト系，グループフィットネス，パーソナルなど。
 - **アクアティックプログラム**；スイミング，スキューバダイビング，ウォーターフィットネス，水球など。
 - **アウトドア（アドベンチャー）プログラム**；野外キャンプ，アドベンチャートリップ，クライミングウォールなど。
 - **オープンレクリエーション**；学生が一人や仲間で各種スポーツを自由に楽しめるよう関連施設を開放するサービス。
 - **イントラミュラル・スポーツ**；学内競技大会（学期ごとのリーグ戦・トーナメント戦等）の開催。
 - **クラブスポーツ**；**一般学生が競技スポーツを本気で楽しむための学内クラブ**（学生主体で，対外試合もある）。
- ⑤ **レクスポの価値（評価）**：学生の健康・体力やウエルネスの向上，相互尊敬に基づく自律性の発達，自己アイデンティティの確立，目的意識の向上，入学動機への影響，学生・教職員間のつながり等々。

3. 大学スポーツの構造：Recreational SportsとVarsity Sports



4. レクリエーション・スポーツのタイプ (Campus Recreation Programs)

① プログラムサービス：指導者，施設，学習内容（時間）がすべてパッケージ化されたもの。

- フィットネス&ウエルネスプログラム；心肺系，ウェイト系，グループ向けクラス，パーソナルなど。
- アクアティックプログラム；スイミング，スキューバダイビング，ウォーターフィットネスなど。
- アドベンチャープログラム；主に新入生を対象とした交流型の野外キャンプや冒険的な旅行など。
- イントラミュラルスポーツ；学内競技大会（各スポーツ種目の男女別ないし混合リーグ戦を中心とした学期ごとの競技大会や，トーナメント戦の競技大会）の開催など。

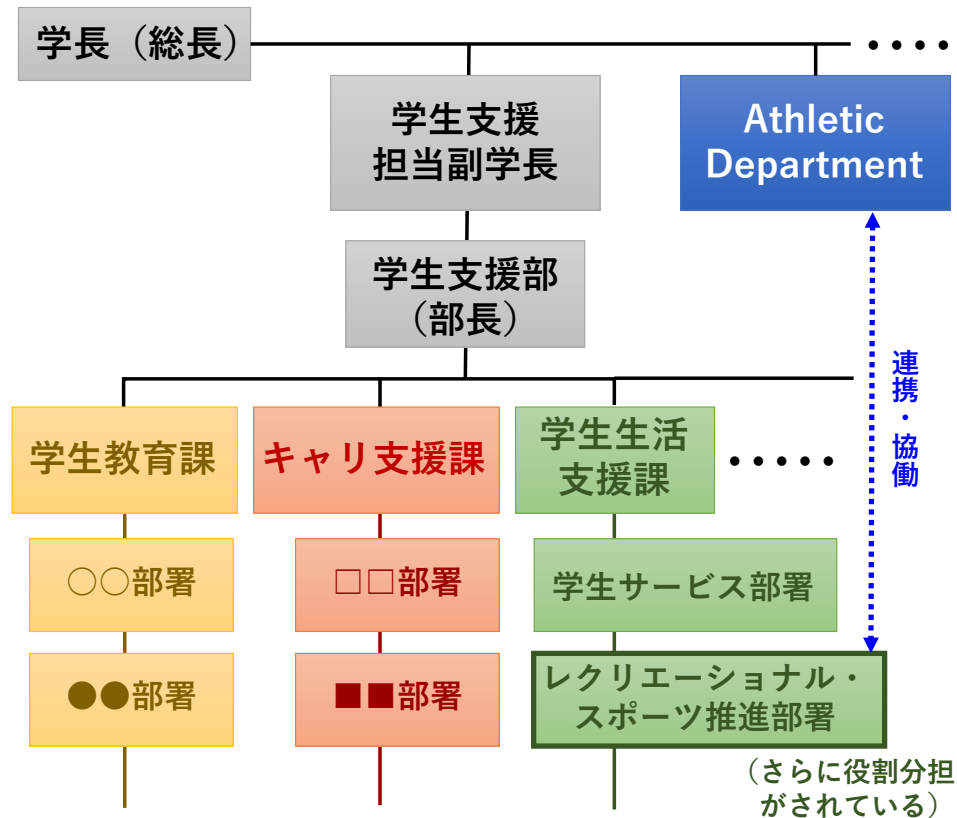
② エリアサービス：施設開放サービスや用具・器具等レンタルサービス

- ◆ オープンレクリエーション；学生が一人や仲間でバスケットボールやミニサッカー，フラッグフットボール，ラケットスポーツ（テニス，ラケットボール，スカッシュ，ピックルボールなど）を自由に楽しめるよう関連施設を開放するサービス。
- ◆ アウトドアレクリエーション；クライミングウォール施設の開放サービスや，アウトドア器具やマウンテンバイク等のレンタルサービスなど。

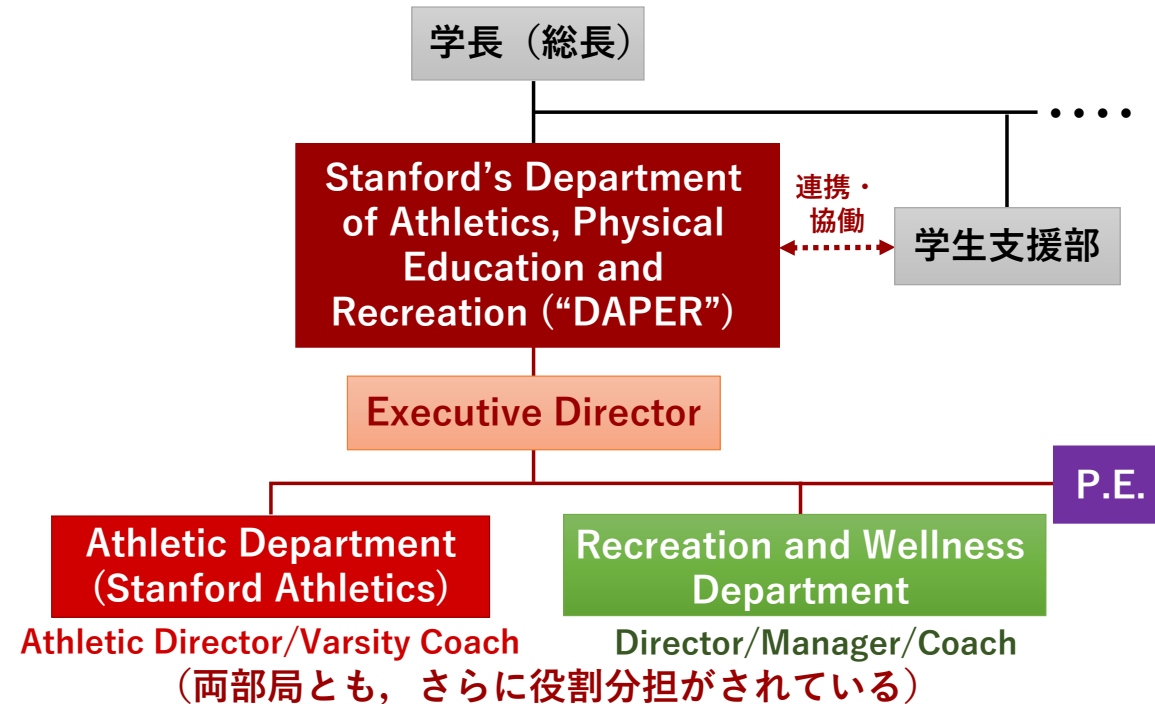
③ クラブサービス：バーシティスポーツには入ることができなかったが，競技スポーツを本気でプレイしたい一般学生向けの「クラブスポーツ」（種目別の学内クラブ）であり，対外試合も組まれている。

5. 大学スポーツを推進するための2つの「組織システム」（簡潔版）

① Student Affairs (SA; 学生支援部) モデル



② Stanford University モデル



1990年代の米国における大学スポーツは、競技も含めたレクリエーション・スポーツ部署とバーシティスポーツ (Athletics) 部署を包含した組織システムによって推進されていた (Matthews, 1990)

[視察内容・資料をもとに中西作成©]

V. 大学のレクリエーション環境の充実に向けた政策課題

- **各大学の組織システムの変革**：学生部（課）の一部署から脱皮し，各大学に「学内スポーツ推進組織」の整備充実を図ることによって，競技スポーツ（体育会クラブ）とレクリエーション・スポーツ（一般学生・教職員対象）の並行的な普及・推進を実現する（**スポーツプロモーション戦略**）。そのうえで，費用・予算や大学スポーツ推進事業のあり方を検討することによって，**ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）や（一社）大学スポーツ協会（UNIVAS）とのネットワーク関係の構築**も可能になるであろう。
- **人材養成・採用**：学内スポーツ推進組織（スポーツ推進部局等）においてスポーツマネジメントを実践できる専門人材の養成について検討する（**大学院修了のスポーツマネジメント専門人材**）。※**スポーツアドミニストレーター（SA）**などを配置している大学もあるが，その専門性には課題があるものと思料される。
- **大学保健体育の改善**：大学設置基準の大綱化（1991年）に伴って選択科目化された「保健体育」（理論・一般体育実技）の受講促進策を検討する（今でも教養科目・共通科目として必修にしている大学もあるが）。そのためには，**（公財）全国大学体育連合との連携・協力体制の確立**が必要不可欠である。
- **大学スポーツの捉え方**：「大学スポーツ＝運動部活動」という**狭義の捉え方**を再考する。**一般学生・教職員のためのレクスポまでを含めた，広義の捉え方**を検討する必要がある。さすれば，授業と体育会クラブで主に利用されている各種スポーツ施設をレクスポでも利用できる可能性がある（**限られたスポーツ施設の有効活用方策の再検討**）。そのためには，**UNIVASの使命・指針・価値観の再確認と再定義**も求められよう。

Thank You

Futurize.

きみの意志が、未来。

R junjin@fc.ritsumei.ac.jp

- ◆ これらの視察調査の結果は、立命館大学2022年度 R2030 推進のためのグラスルーツ実践支援制度「立命館スポーツプロモーション局（仮称）の設立にむけた米国における大学スポーツの動向とAD局調査」（学生部スポーツ強化オフィス；代表者 村上吉胤課長）から得られたものである。